資料3

TEPCO

銚子沖洋上風力発電所における ROVなどの実証実験

2021年2月 東京電力リニューアブルパワー株式会社



1. 私達が目指す姿と取り組み

ミッション/理念

自然の恵みをエネルギーに、そして社会に

再生可能エネルギーを通して、**地域に根ざした産業の発展**と **持続可能な社会の実現**に貢献する

ビジョン/目指す姿

脱炭素の流れを大きなビジネスチャンスと捉え 再生可能エネルギーの「主力電源化」を推し進め CO2フリーの「未来エネルギー社会」を創造する会社を目指す

2030年代前半までに、国内外で**600~700万kW**程度の新規開発と **1000億円**の利益創出を目指す

主力事業方針

~再エネ電気を増やす~

①国内水力事業

- 既存事業の価値向上
- リパワリングの推進

②海外水力事業

- 技術力を活かした 本格展開
- 発電所のバリューアップ

③国内外洋上風力事業

- 大規模着床式WFの 早期実現
- 案件拡大、浮体式の導入

4地熱事業

● 事業の具体的調査推進

事業基盤の充実

◆ 人と技術を育てる

【参考】会社概要



東京電力ホールディングス

原子力発電

賠償・廃炉・復興推進

グループ経営管理

一般管理業務

技術開発 · 知的財産管理

水力発電 再生可能エネルギー発電 新規事業·海外水力開発

洋上風力開発

T=PCO

東京電力フェエル&パワー



東京電力パワーグリッド

T=PCO

東京電力エナジーパートナー

TEPCO

東京電力リニューアブルパワー株式会社

再生可能エネルギー 発電事業に特化

会社概要(2020年4月1日分社化)

住 所 : 東京都千代田区内幸町

一丁目1番3号

設 寸 : 2019年10月1日

資本金 概要 10 億円

> 資産 : 5,145 億円

> 負債 : 2,029 億円

従業員数: 1,100人

商号



東京電力 リニューアブルパワー株式会社 **TEPCO** Renewable Power, Incorporated

保有 設備 水力

163箇所

太陽光

3箇所

風力

2箇所(陸上1,洋上1)

2. 洋上風力事業の立ち上げと展開

- 銚子沖実証事業での経験・知見を基に、第1期公募への入札に向けた検討を推進。
- 将来的には獲得したノウハウで浮体式・海外への多角化を図る。

開発·建設·O&M実績

- ○銚子沖洋上風力 実証事業・商用運転(本邦初の沖合洋上風力の運転開始2013年)
- ○東伊豆ウィンドファーム (運転開始2015)



第1期公募入札

オーステッドとの銚子沖開発 による大規模WFの実現



第2期公募 入札~ 獲得案件の積み上げ

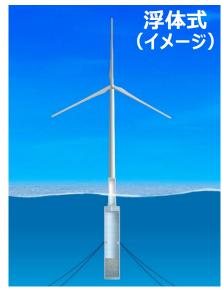


- ·浮体式の実証·大規模WF化
- ・国内洋上風力のサプライチェーン構築

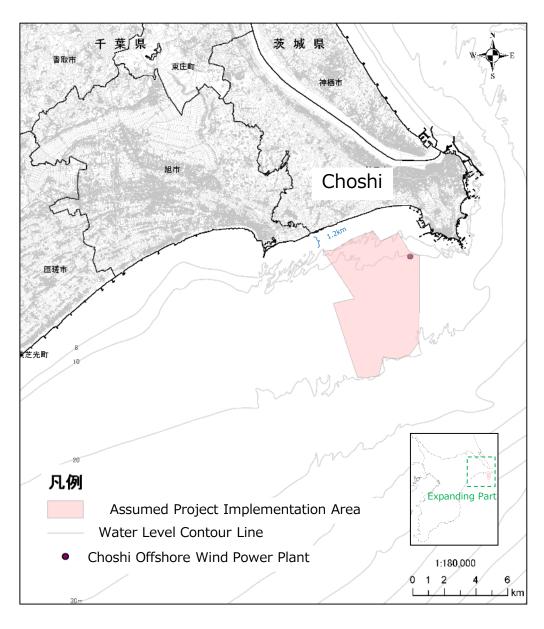
海外での洋上風力事業開発 開発初期段階からの事業参画



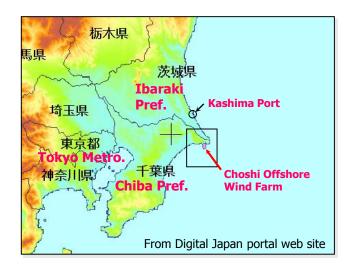




【参考】銚子市沖促進区域の概要



- ◆Assumed Project Implementation Area
- ① Construction Site : Off the Coast of Choshi City
- ② Annual Average Wind Velocity: 6.6 m/s more at 70m in height
- ③ Water Depth: About 8 to 20 m
- 4 Number of Ships Traveling: Less than 30 vessels / month
- ⑤ Distance from the coast: Farther than 1.2 km
- ◆Area: Approximately 39 km²



3-1. NEDO実証研究の概要

- 風況確認、自然現象(地震、台風、雷等)からの影響評価等の知見を得るために、千葉県銚子沖にて2009年から洋上風力の実証研究を実施。
- 現在は実証研究期間を終え、2019年1月1日より商用運転を開始。



研究期間(8年間)

09年8月~13年1月(開発、建設) 13年1月~17年3月(運転、研究)

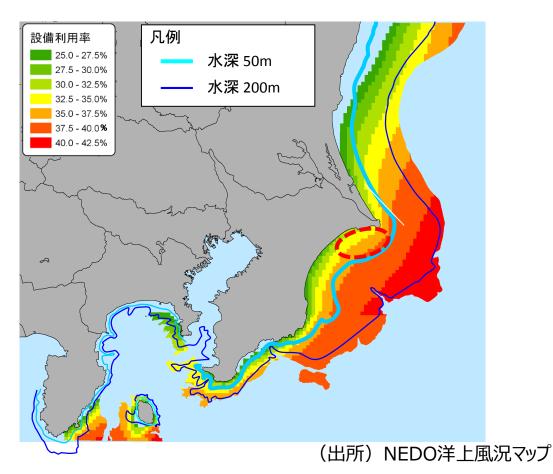
研究目的

台風や地震が発生する日本における安全性 の確立と環境影響調査

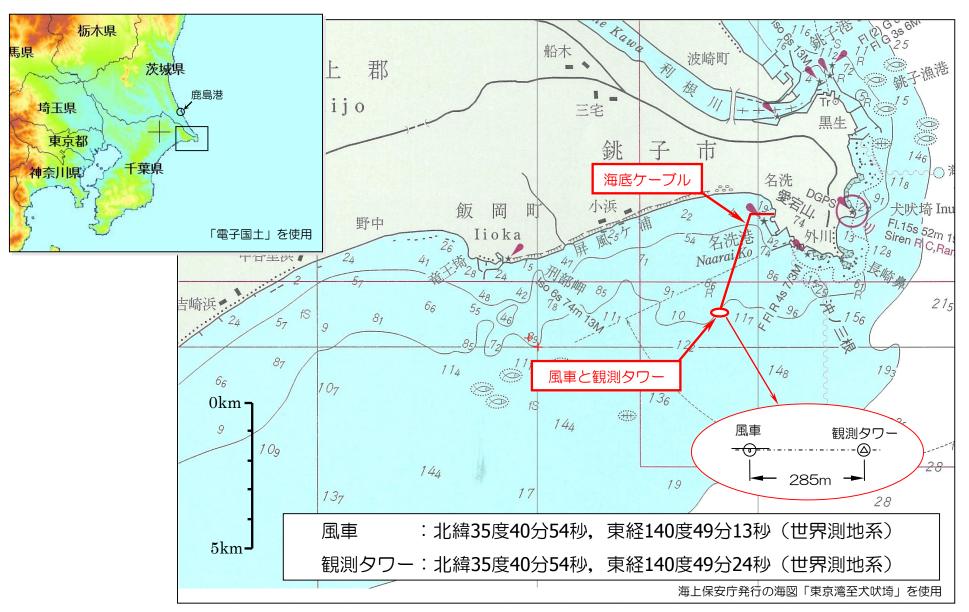
- 洋上の大きな風エネルギーの確認
- 強風、高波に対する安全性
- 地震に対する安全性
- 風車の塩害などへの耐久性
- ■環境への影響

他

- ・銚子沖合は関東地方で随一の高風速の海域
- ・銚子沖合から九十九里浜沖は遠浅の海域

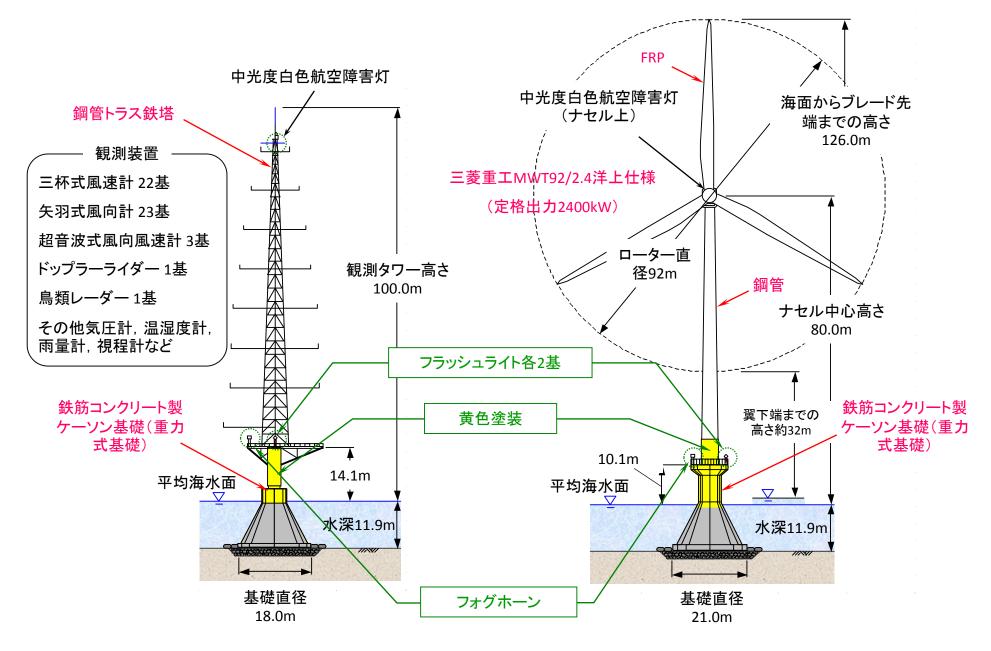


3-2. 実証研究設備(現:銚子洋上風力発電所)の設置場所



実証研究設備の設置場所(千葉県銚子市沖3.1km)

3-3. 設備概要(観測タワー・風車)



3-4. 実証研究の成果①

① 強風、高波に対する 基礎と風車の安全性を実証

② 塩害に対する風車の耐久性を実証

観測波高: **9.5m**(2013年) ([参考] 設計波高: 10.5m) 発電機や変圧器、軸受けなどに大きな トラブルなし。機器にサビもなし



2013年の台風26号直撃時の画像 (観測波高9.5m)



実証風車のナセル (2012年6月@三菱重工横浜製作所)

3-5. 実証研究の成果②

③ 環境への影響を調査

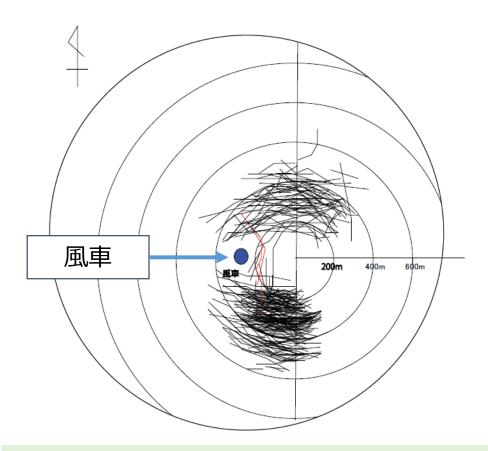
海生生物、鳥類などへの影響を調査

バードストライクなし



銚子沖に多く生息するオオミズナギドリ

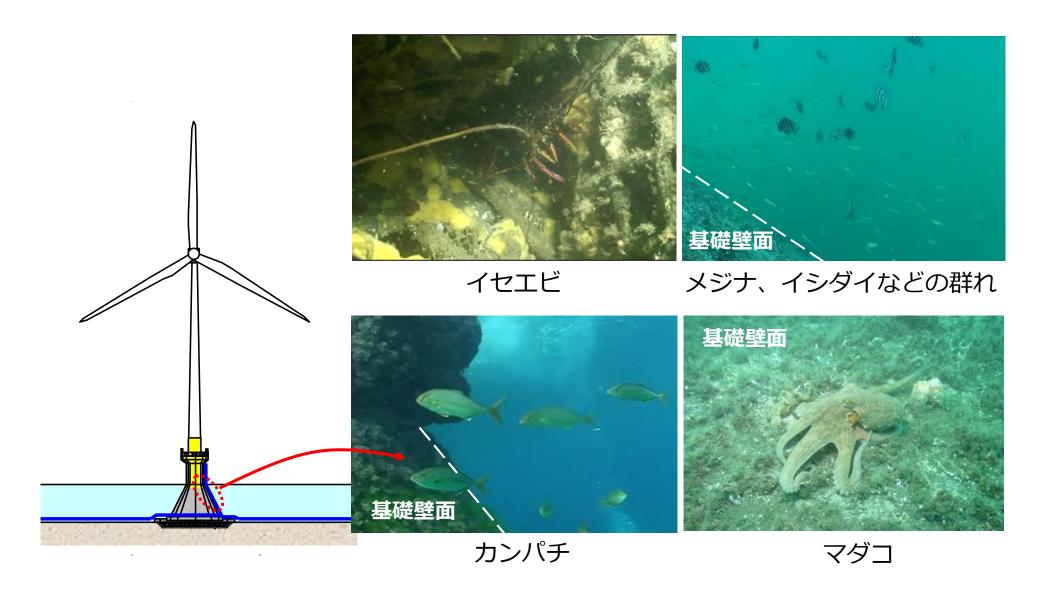
「レーダー調査」で観測された鳥類の飛行軌跡観測例 (2016年8月24日18:00-25日12:53)



「レーダー調査」では、鳥類が風車を 避けて飛行していることがわかった。

3-6. 実証研究の成果③ (漁礁効果)

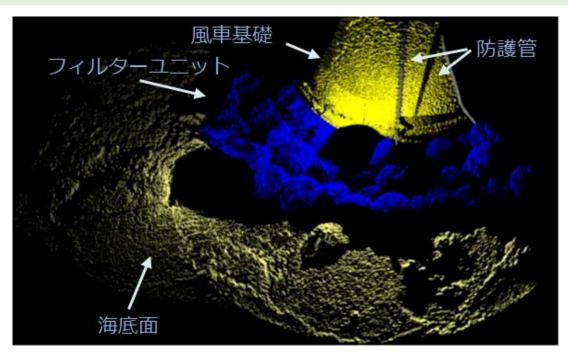
• 洋上風車・観測タワー近傍にて、漁礁効果を確認。



4. ROVの実証実験①

年間を通して波高が高い銚子沖促進区域の海中は、波で巻き上げられた細砂やシルトによって、きわめて視界が悪く、海中作業の支障となっている。このため、東京電力ホールディングス株式会社では、銚子沖商用機を用いて、画像鮮明化技術を用いた、ROVの点検への適用性について、研究を実施してきた(2018年11~12月)。





銚子沖商用機での水中ドローン試験と3Dソナーによるスキャニング例



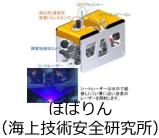




広和300m級(日本製) Neptune



Saab Seaeye Ltd.(UK)Falcon



4. ROVの実証実験②

■ 画像鮮明化技術の適用性を確認。今後、ROVと組み合わせて現場適用していきたい。





画像鮮明化処理前

画像鮮明化処理後

銚子沖商用機での水中画像の鮮明化の事例 (画像処理デバイス: (株)ジーニック製FF-100HM「FogFINE」)

5. CTVの実証実験

● 小型船でかつ耐波性能の高い日本製のCTV(クルー・トランスファー・ベッセル)の性能評価を実施し、良好な性能を得た(2016年1月~2017年1月)。

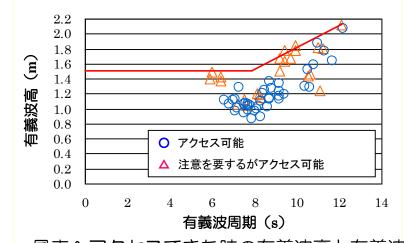




日本で初めて設計・建造された洋上風力メンテナンス支援船 PORTCAT ONE (ポートキャットワン) (船主:東京汽船株式会社)

主要目

総トン数	19トン
最大搭載人員	旅客12名、船員2名
最大貨物積載量	1トン
推進装置	ディーゼルエレクトリック駆動ウォータージェット2基
最大速力	29.2ノット
最大押付力	6.5トン



風車へアクセスできた時の有義波高と有義波周期